

渋谷区 学びと読書に関する区民アンケート

概要版

渋谷区には、区立図書館が10館、社会教育館が5館あります。

区立図書館および社会教育館のサービス等をよりよくし、区民の皆様が学び、本を読むための環境として活用いただけるよう、日頃の学習活動や読書の様子、図書館・社会教育館の利用状況・ニーズを把握するアンケート調査を行いました。

調査には、16歳以上の渋谷区民1,712人(郵送調査での回答者1,170人、インターネット調査の回答者542人)にご回答いただきました。

平成29年6月
渋谷区教育委員会

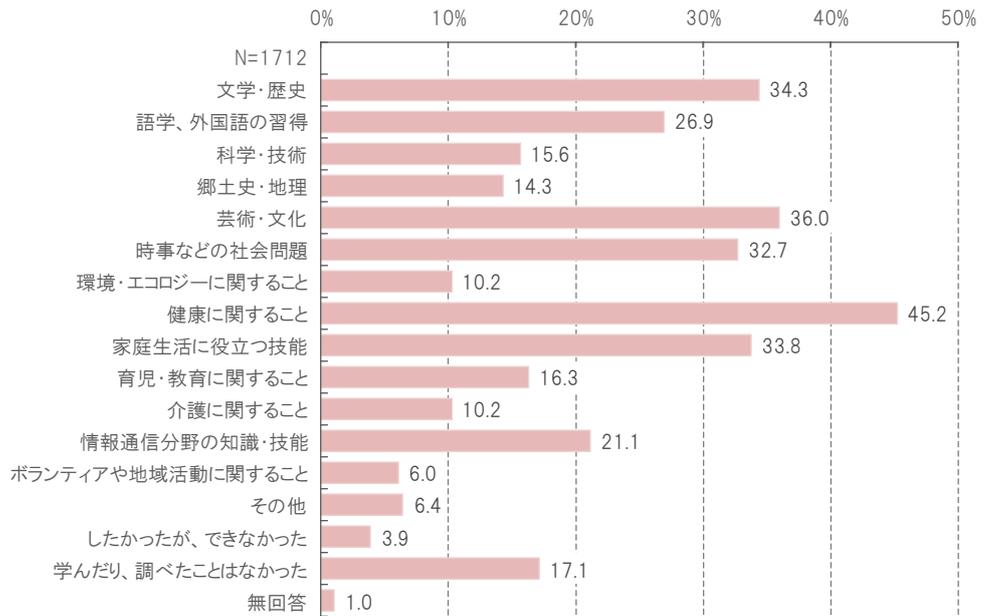
普段の学習活動、読書・インターネット利用の状況について

過去1年間で仕事や学校の授業以外で何かを学んだり、調べたりした人

78.0%
(1,712人中)

- 学んだり、調べたりしたことのある分野では、健康、芸術・文化、文学・歴史が多くなっています。
- 学んだり、調べたりした方法としては、ウェブサイトの検索や本・教科書の利用が特に多くなっています。ウェブサイトの利用は60歳代でも6割強となっています。

Q. あなたは、過去1年間に於いて、読書やウェブサイトの閲覧、また講座やセミナーへの参加によって、何かを学んだり、調べたりしたことはありますか。学んだり、調べたりした内容をすべて選択してください。(○はいくつでも)



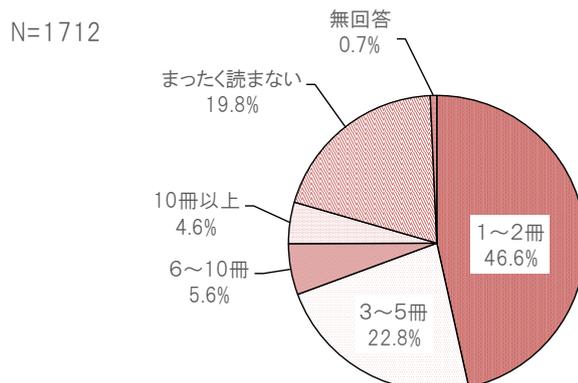
1か月に1冊以上の本や雑誌(電子書籍を含まない)を読む人

79.6%
(1,712人中)

- 1か月に読む本の冊数については、30歳代では本を読まない人が他の世代に比べてやや多くなっています。
- 本の入手方法としては書店での購入が7割程度で最も多くなっています。図書館で借りる人は3割程度で、インターネット書店で購入する人と大きな違いはありません。

Q. あなたは、1か月に平均何冊くらい本や雑誌を読みますか。(○は1つ)

※ここでいう本や雑誌には、マンガは含まれません。また、電子書籍も含まれません。



パソコンやスマートフォン等を使って電子書籍を読む人

31.1%

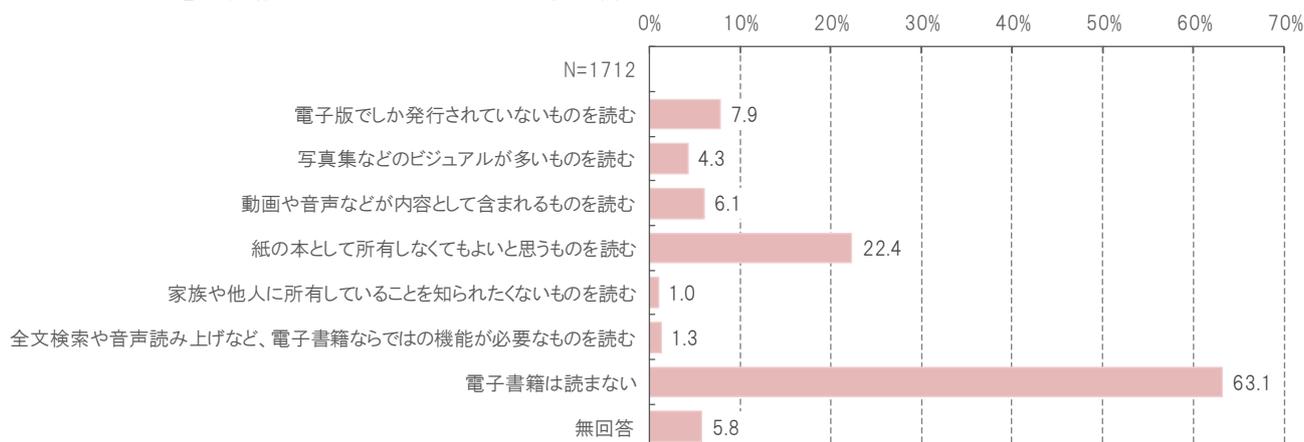
(1,712人中)

- 年代にかかわらず、電子書籍を読む人は3割程度です。
- 電子書籍の利用方法としては、紙の本で所有しなくてもよいと思う本を電子書籍で読む人が2割強で、他の利用方法に比べて多くなっています。

Q. あなたが、パソコンやスマートフォン、タブレット端末、または電子書籍リーダーを使って読む電子書籍はどのようなものですか。(○はいくつでも)

※出版社が発行する電子書籍のほか、青空文庫やアマチュアが発行するものも含まれます。

※ここでいう電子書籍には、マンガのオンライン版は含まれません。



インターネットでニュースサイトやSNS、動画サイトを利用する人

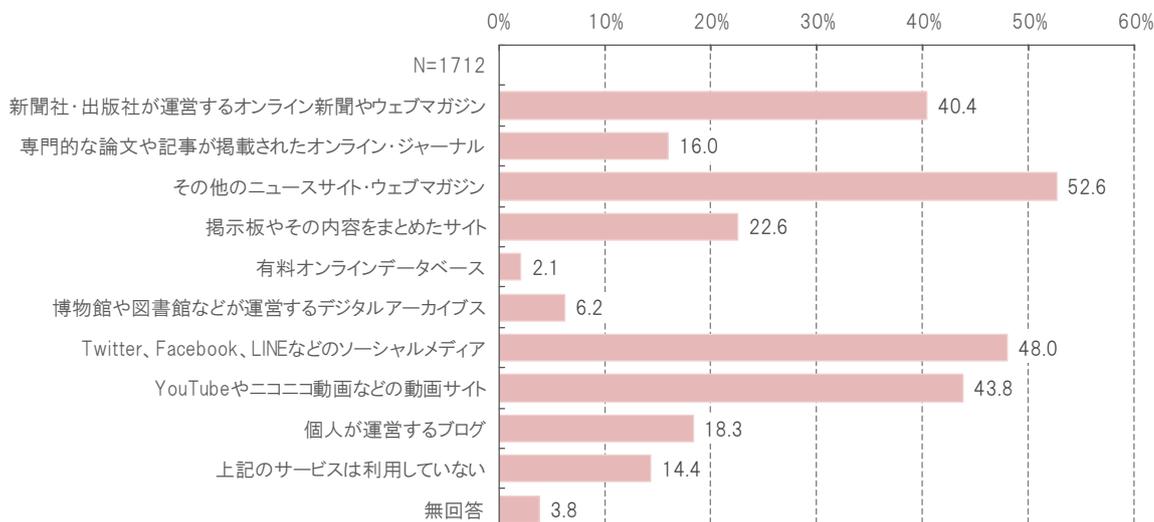
81.8%

(1,712人中)

- 10～60歳代では概ね8割程度の人が上記のサービスを利用していますが、70歳以上では利用しない人が4割半ばとなります。
- オンラインデータベースやデジタルアーカイブを利用している場合に区立図書館を定期的に利用している人が多くなります。

Q. 次のインターネットサービスのうち、あなたが、パソコンやスマートフォン、タブレット端末を使って利用しているものは何ですか。(○はいくつでも)

※ウェブメールやチャットの利用は選択肢から除いています。



渋谷区立図書館・社会教育館一覧



渋谷区立図書館

- ① 中央図書館(渋谷区神宮前1-4-1)
- ② こもれび大和田図書館(渋谷区桜丘町23-21 2階)
- ③ 西原図書館(渋谷区西原2-28-9)
- ④ 渋谷図書館(渋谷区東1-6-6)
- ⑤ 富ヶ谷図書館(渋谷区上原1-46-2)
- ⑥ 笹塚図書館(渋谷区笹塚1-47-1 4階)
- ⑦ 本町図書館(渋谷区本町1-33-5)
- ⑧ 臨川みんなの図書館(渋谷区広尾1-9-17)
- ⑨ 代々木図書館(渋谷区代々木3-51-8)
- ⑩ 笹塚こども図書館(渋谷区笹塚3-3-1)

渋谷区立社会教育館

- ⑪ 幡ヶ谷社会教育館(渋谷区幡ヶ谷2-50-2)
- ⑫ 恵比寿社会教育館(渋谷区恵比寿2-27-18)
- ⑬ 長谷戸社会教育館(渋谷区恵比寿西1-23-4)
- ⑭ 千駄ヶ谷社会教育館(渋谷区千駄ヶ谷1-6-5)
- ⑮ 上原社会教育館(渋谷区上原3-13-8)

渋谷区立図書館について

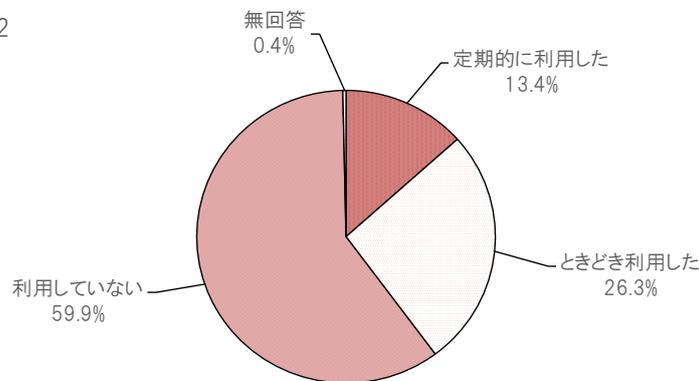
過去1年間で区立図書館を利用した人

39.7%
(1,712人中)

- 過去1年間で定期的に利用した人は1割強、ときどき利用した人は2割半ばとなっています。(左記はその合計です。)
- 年代別にみると30～50歳代では、子供の付き添いで利用する人が他の年代に比べて多く、定期的に利用する人がやや増えます。
- 1か月の読書量が多い人や、余暇に使える予算が少ない人の方が、区立図書館を利用する傾向が見られます。
- 定期的に利用する人のうち9割程度が満足している一方、利用していない人の6割が区立図書館に関心を持っていません。

Q. あなたは過去1年間に渋谷区立図書館を利用したことがありますか。(○は1つ)

N=1712



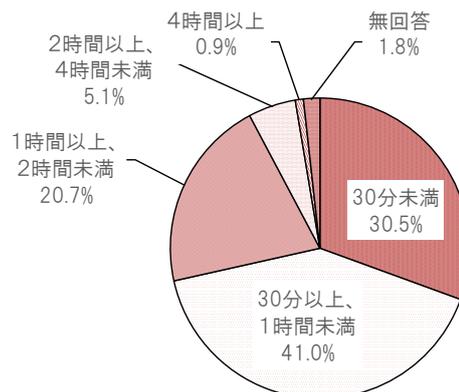
区立図書館の利用時に1時間以上、滞在する人

26.7%
(681人中)

- 滞在時間が1時間未満の人が7割程度となっています。
- 7割半ばの人が本を借りるために区立図書館を利用していることから、本を借りるのに要する時間が1時間未満だと考えられます。
- 滞在時間については、10～20歳代と70歳以上ではやや長い傾向が見られます。それ以外の年代の滞在時間は短いです。

Q. あなたが区立図書館を利用する際、1回あたりの滞在時間はどれぐらいですか。(○は1つ)

N=681



区立図書館を利用しない理由

1位 **生活時間と開館日や時間が合わない**

2位 **本・雑誌・CD・DVDは自分で購入する**

3位 **貸出手続きや返すことが面倒**

(1,025人中)

○全体で見ると、左の3つが区立図書館を利用しない理由として多く挙げられています。

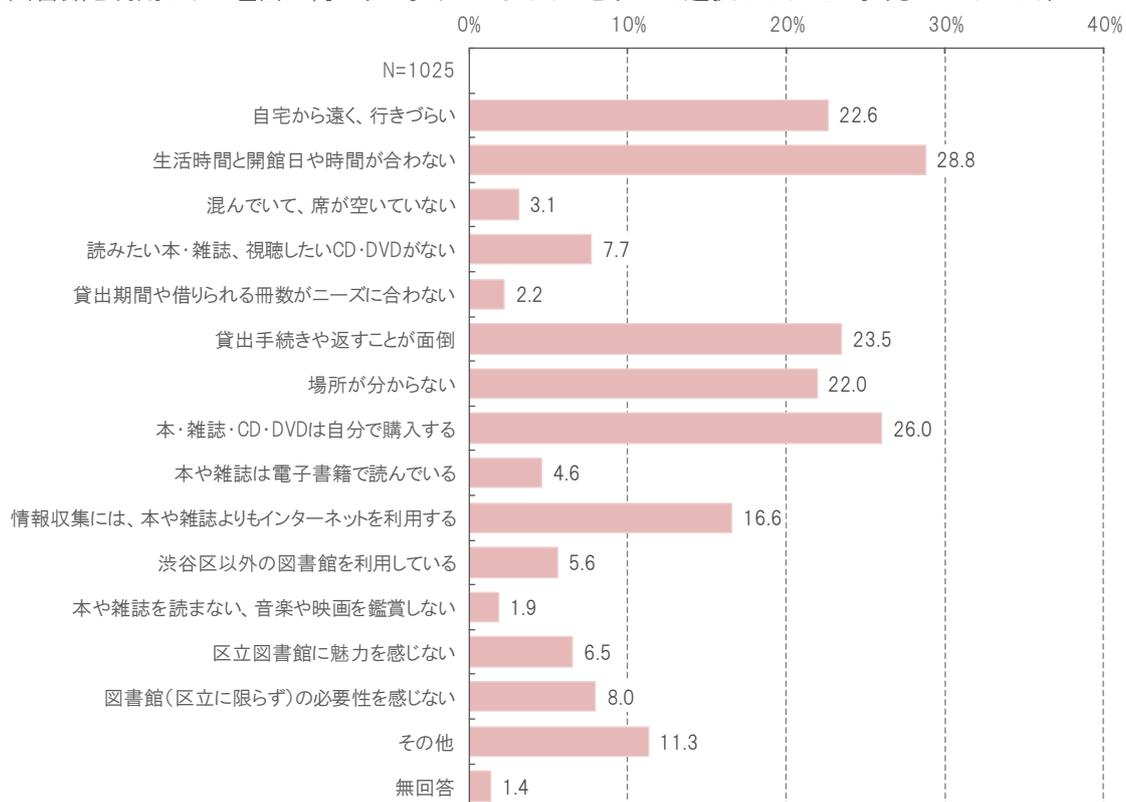
○「自宅から行きづらい」という理由も多くなっていますが、区立図書館が立地している神宮前、西原、富ヶ谷などに住む人も、他の地域に住む人に比べて利用が多いわけではありません。

○年代別にみると、10～50歳代では共通して「生活時間と開館日や時間が合わない」が多くなっています。60歳以上では「本・雑誌・CD・DVDは自分で購入する」が最も多くなります。

○さらに20～40歳代では2～3割程度の人が区立図書館の場所を知らないことが分かりました。

○区立図書館の魅力や、そもそも必要性を感じていないという理由は少ないです。

Q. あなたが区立図書館を利用しない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選択してください。(○はいくつでも)



図書館一般に対する認識について

図書館一般に対する認識を尋ねたところ、無料で多様な本を借り、読むことができるという点で重要だと認識されていることが分かりました。また、資料単体ではなく、仕事や勉強のための〈資料のある場所〉として図書館の意義を見出す人も多くなっていました。

インターネットが普及するなかではありますが、相対的に重要度が低くなっているという認識を持つ人は少なく、また税金による無償サービスであることを疑問に感じる人も少なかったです。

このような認識は図書館の利用状況や読書量による大きな違いは見られませんでした。インターネットを利用している人の方が情報格差が広がるなかで情報を得る施設として図書館を認識している傾向が見られたことが特徴です。

区立図書館を今よりも利用するようになるために必要なサービス・取組

1位 **居心地のよい環境をつくる**

2位 **幅広いニーズに応えるために資料を増やす**

3位 **開館時間を延長する**

(1,712人中)

○全体でみると、左の3つが区立図書館を今よりも利用するようになるために求められているサービスです。「個人では入手しにくい希少本や高価な本を所蔵する」も多くなっています。

○「居心地のよい環境」については、自由回答にて、飲食スペースの充実や閲覧・自習のための席の増加が求められています。カフェの併設を期待する声もありましたが、一部疑問を持つ意見もありました。

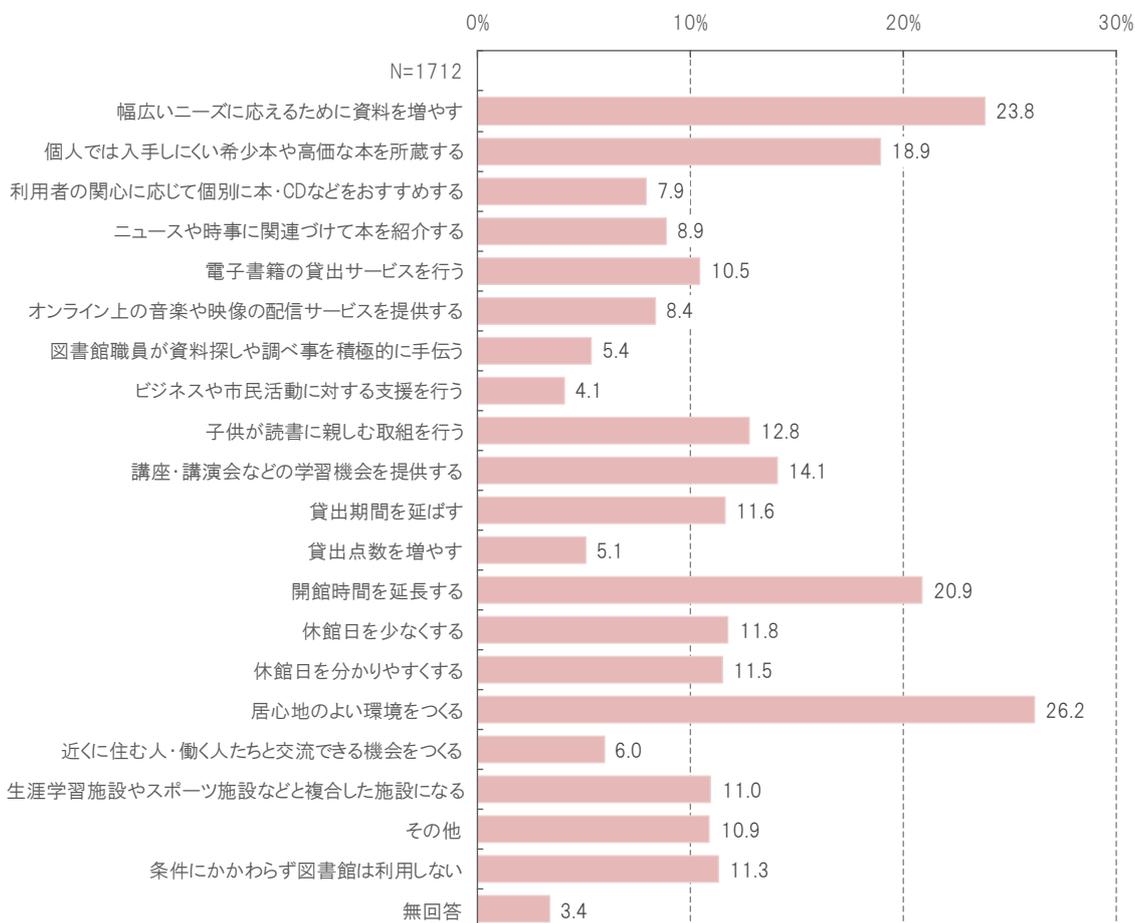
○生涯学習施設、スポーツ施設との複合化はそれほど望まれてはならず、1割程度となっています。

○区立図書館の利用状況にかかわらず、共通して「居心地のよい環境をつくる」ことへのニーズは高くなっています。利用している人に関しては、資料に対するニーズが多く挙げられています。

○一方、図書館を利用していない人のうち、読書や学習活動をしている人、ないしは学習への意向がある人に関しては、環境整備や資料の充実が進めば利用すると回答する人が多くなっています。

○条件にかかわらず、区立図書館を利用しないという人は1割程度です。

Q. あなたが区立図書館を今よりも利用するようになるためには、どのようなサービスが特に必要だと思いますか。(○は5つまで)



社会教育館について

社会教育館を知っている人

58.3%

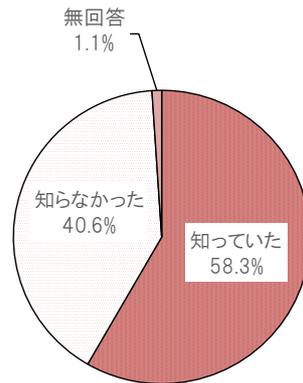
(1,712人中)

○社会教育館を知っている人は6割弱です。

○年代が上がるにつれて社会教育館を知っている人は増え、10～20歳代での認知度は4割弱であるのに対して、60歳以上では7割半ばとなります。

Q. あなたは、区に社会教育館があることを知っていましたか。(○は1つ)

N=1712



過去に社会教育館を利用したことがある人

31.6%

(1,712人中)

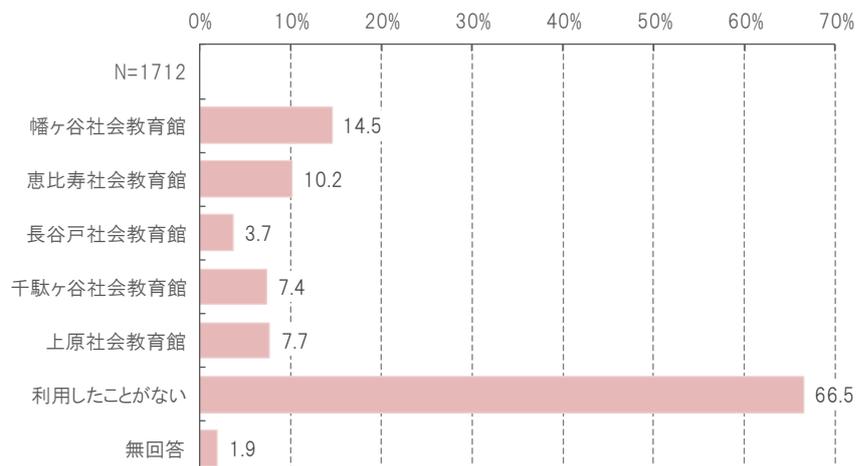
○6割弱の認知度があるなか、実際にいずれかの社会教育館を利用したことがある人は3割程度です。

○20歳代以上では、年代が上がるにつれて社会教育館を利用した人は多くなり、70歳以上では約半数が利用したことがあります。

○利用したことがない理由としては、「施設を知らない」「利用方法が分からない」「講座の情報が分からない」が多く、施設やサービス内容等が十分に周知されていないことが伺えます。

○利用したことがある人が改善する必要があると思うことは「施設・設備の老朽化対策」のほか、団体でしか利用できない条件を緩和することが挙げられています。

Q. あなたは、社会教育館を利用したことはありますか。利用したことがある館をすべて選択してください。(○はいくつでも)



社会教育館を今よりも利用するようになるために必要なサービス・取組

1位 **予約方法が分かりやすく、システムが使いやすい**

2位 **新しく、きれいな施設になる**

3位 **様々な内容の講座が開催される**

(1,712人中)

○全体で見ると、左の3つが社会教育館を今よりも利用するようになるために求められているサービス・取組です。

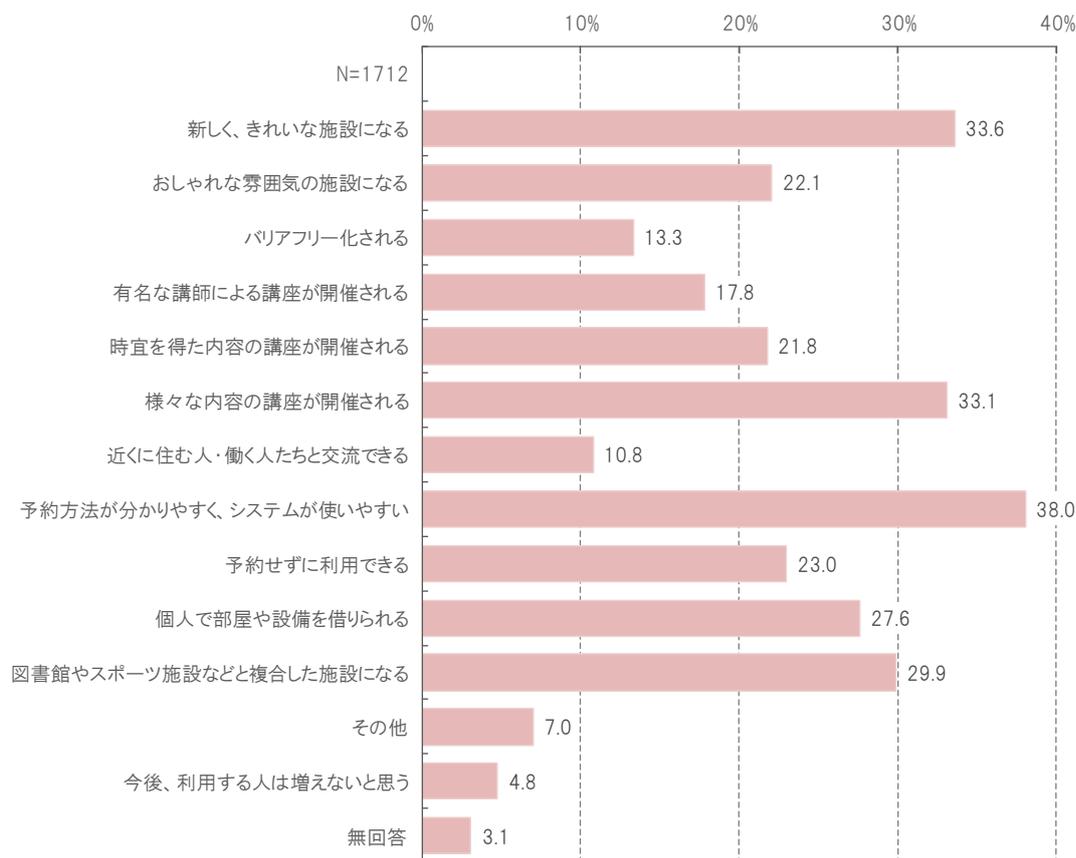
○区立図書館に対しては複合施設になることのニーズは多くなかったですが、社会教育館については図書館、スポーツ施設等との複合化が多く求められていると言えます。

○また、個人での利用や予約せずに利用できることなども多く、使いやすさの向上も求められています。

○選択肢のほか、自由回答では社会教育館の存在や利用方法、実施している事業を様々な媒体をとおして発信し、周知していくことで利用を増やしていく必要があることも指摘されています。

○サービス・取組にかかわらず、「今後、利用する人は増えないと思う」という人は少なかったです。

Q. あなたは、どのような社会教育館であれば、より多くの人が利用するようになると思いますか。(○は5つまで)



学びや読書のために必要な区取組

区民が求める学びや読書のための施設や事業、サービス

1位 カフェやショップなどの商業施設と複合した施設の設置

2位 新しい知識を得るための講座の実施

3位 仕事や勉強のために一人で使えるスペースの貸出

(1,712人中)

○左の3つの施設や事業、サービスが区民から求められています。そのほか、施設としては「仕事や勉強のために一人で使えるスペース」も多く挙げられています。

○事業・サービスについては、「新しい知識を得るための講座」「宅配やコンビニ、駅、その他の施設での図書館の本の貸出・返却」「文化的な体験ができるワークショップ」が多く挙げられています。

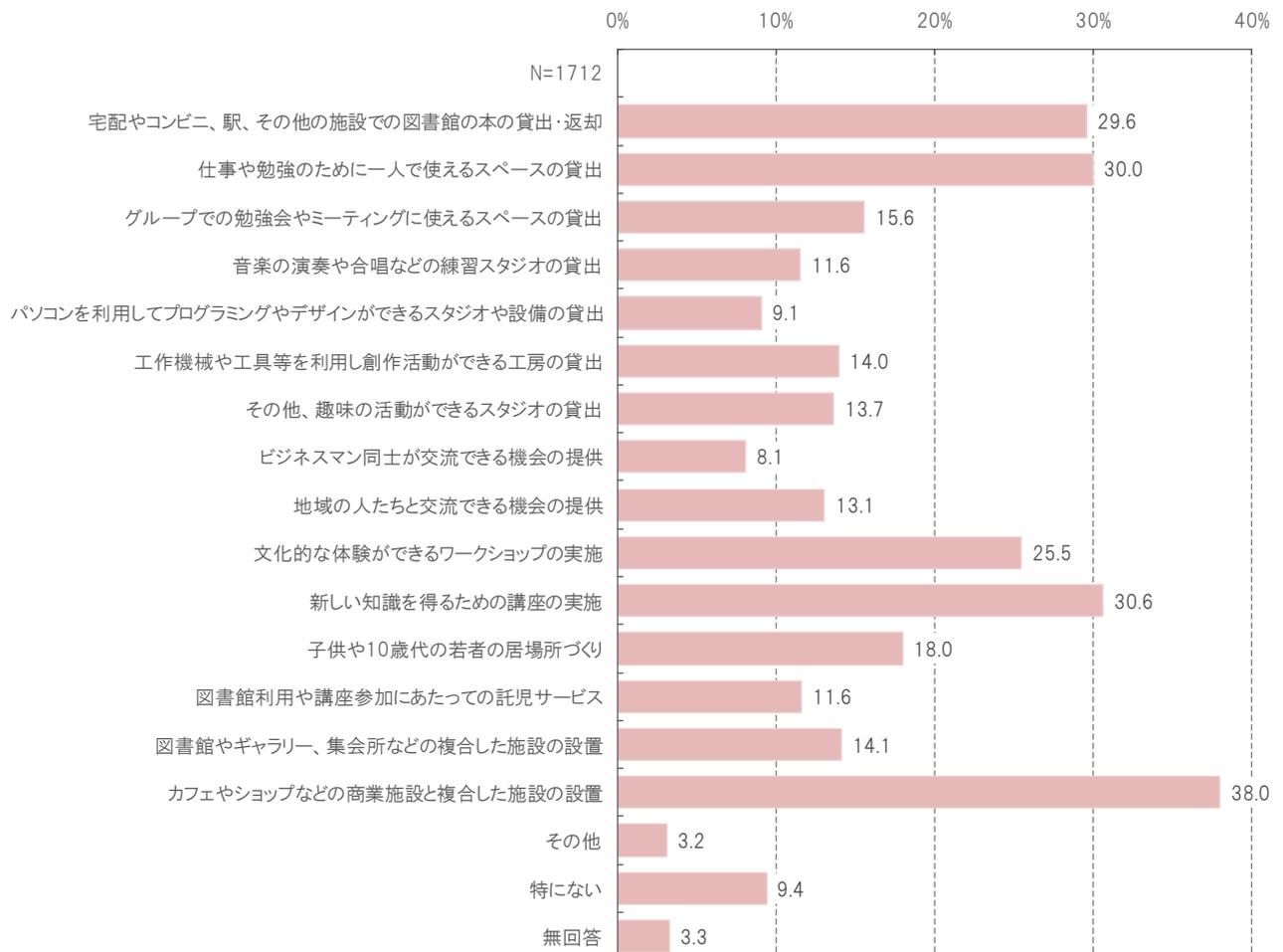
○年代にかかわらず商業施設との複合化は求められています。

○年代別にみると、10～20歳代では「仕事や勉強のために一人で使えるスペース」も多くなっており、特に10歳代では7割が求めていることが分かりました。

○その他、子供のいる人については、「子供や10歳代の若者の居場所づくり」が多く挙げられていました。

○商業施設との複合化は、学習活動の状況や学習への意向によらずニーズが高くなっていますが、区立図書館を定期的に使っている人では「文化的な体験ができるワークショップ」「新しい知識を得るための講座」に対するニーズの方が高くなっています。

Q. あなたは、自分が今後何かを学んだり、活動したりするために渋谷区が行なうとよいと思うサービスは何ですか。(○は5つまで)



子供の読書やインターネット利用について

本を読むことが好きな子供

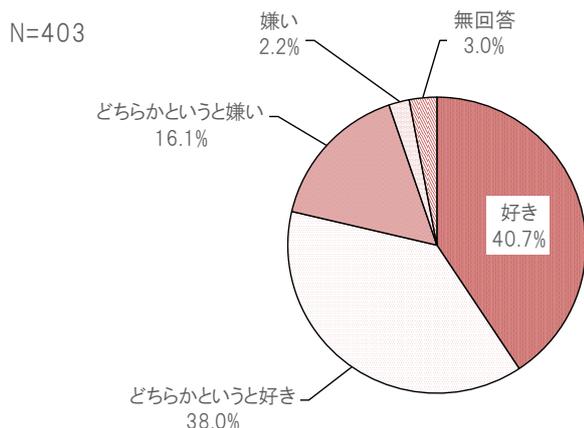
78.7%

(403人中)

○18歳未満の子供のいる人に子供の読書の好き嫌いを尋ねたところ、8割弱の子供が読書が好きだと分かりました。

○本を読まない保護者に比べて、本を読む保護者については、本が好きなお子供が多くなることから、保護者の読書習慣と子供の本の好き嫌いに関係があることが伺えます。

Q. あなたのお子さんは本を読むことは好きですか。(○は1つ)



1か月に1冊以上の本(電子書籍を含む)を読む子供

79.0%

(403人中)

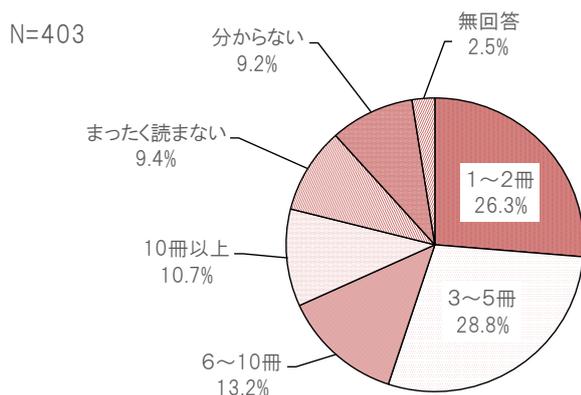
○18歳未満の子供のいる人に子供の読書量を尋ねたところ、1か月に1冊以上の本を読む子供は8割程度だと分かりました。

○本を読まない保護者に比べて、本を読む保護者については、本を読まない子供が少ないことから、保護者の読書習慣と子供の読書習慣にも関係があることが伺えます。

○子供の読書の好き嫌いや読書習慣が、保護者の読書習慣と関係していることが伺えます。

Q. あなたのお子さんは、1か月に平均何冊くらい本(電子書籍を含む)を読みますか。(○は1つ)

※ここでいう本には、マンガや雑誌、教科書は含まれません。



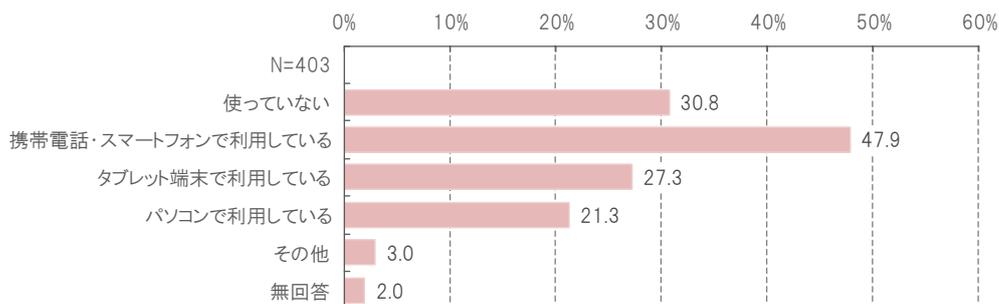
インターネットに接したり、利用したりしている子供

67.2%

(403人中)

- 18歳未満の子供のいる人に子供のインターネットの利用状況を探ねたところ、7割弱の子供が利用していることが分かりました。
- 子供の年代別にみると、中学生以上になるとほとんど全員が何らかの機器でインターネットを利用しています。小学生では6割半ば、未就学児でも4割強の子供がインターネットを利用している、ないしは接しています。

Q. あなたのお子さんはインターネットに接したり、利用したりしていますか。(○はいくつでも)



子供が本を読むために学校や地域で必要な活動

1位 図書館以外に、子供の身近な場所で本に触れる機会をつくる

○全体で見ると、左の3つが子供の読書のために必要な活動として挙げられています。

2位 小中学校の図書館を充実させる

○学校図書館への司書の配置や区立図書館への専門人材の配置など、人的な要素よりも、本に触れる機会や図書館における本の充実が多く求められています。

3位 区立図書館における児童コーナーの設置や児童書の充実

○特徴としては、区立図書館よりも、学校図書館の方が期待が大きく、また図書館以外の場所で本に触れられるようにすることが最も多く求められていることと言えます。

(1,712人中)

Q. 子供が本を読むためには、学校や地域でどのような活動が必要だと思いますか。(○は3つまで)

